

設問A

自由主義者は市場の自己調整力を信じ、勇気と確信をもって変化を受け入れるが、保守主義者は自生的な調整力を信頼せず、制度や公共政策の急速な変化を恐れる。そのため、自由の保持を何よりも重視し、権威による理念の強制を否定する自由主義者とは異なり、社会の秩序維持に関する原則も経済機構の理論ももたない保守主義者は権力による社会の統制を求め、経済的な変化を抑えてくれるエリートの権威を擁護しようとするのである。

設問B

【解答例①】

かつて社会主義は左、保守主義は右とされてきたが、20世紀後半に社会主義者が右に寄っていったのは、道徳的理念の強制という共通の特質をもっていたからである。

日本の保守主義者もこの特質を有している。その顕著な例が夫婦同姓制度の堅持である。日本では民法において、婚姻届提出時に「夫又は妻の氏を称する」ことが規定されているが、実際には妻が改姓するケースが9割以上を占めている。結果として、女性が一方的に人格的・職業的不利益を被っているのだが、保守主義者は夫婦同姓を日本社会に根づいた伝統と見なし、夫婦・家族の一体感をつくる基盤であるとして、別姓を望む人にもその道徳的信念を強制するのである。これに対して、自由主義者は、男女平等と個人の自由という観点から、選択的夫婦別姓制度の導入を主張する。この制度であれば、同姓にしたい人の自由を侵害することなく、別姓を求める人の自由と自己決定権も保障できるからである。

【解答例②】

ソ連における独裁や粛清、経済の停滞といった実態を目の当たりにした社会主義者は、生産手段の国有化や計画経済の理想を断念し、保守主義に接近していった。それは市場原理を信頼せず、社会を国家権力が統制する保守主義の信念が、自己利益の追求を否定して社会全体の平等を求める社会主義の道徳観に近似しているためだ。

たとえば、経済格差の問題に対して保守主義者は、自由競争がもたらす貧富の差を是正すべき不平等と見なし、所得再分配による平等化という社会主義的な政策を進める。これに対して、他者に危害を加えない限り個人の行動は自由だと考える自由主義者は自由競争を肯定し、政府による給付金や企業活動への規制といった政策に反対する。前者は財政を悪化させ、後者はイノベーションを阻害するからだ。むしろ、自由の擁護によって経済が活性化すれば、格差はあっても賃金が上昇し、結果的に国民の生活が底上げされると考えるのが自由主義者である。